使徒の働き

（便 覧）

2017 年 11 月

使徒の働き
(便覧)

章	記　　述	注
1	①イエスの昇天(1～9) 1)イエスは苦しみを受けた後、40 日間現われて、ご自分が生きていることを示された*。 2)「聖霊があなた方の上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります**。」 3)イエスは彼らが見ている間に上げられ、雲に包まれて、見えなくなられた。	西暦 30 年(33 年) ※(　)内は異説 ＊参照　ルカ 24. 34/36 1コリ15. 5 ＊＊福音の宣教
	②白い衣を着た二人(10～12) 1)「イエスは同じ有様で、またおいでになります。」 2)彼らはエルサレムに帰り、泊まっている屋上の間に上がった。	
	③11 使徒たち(13～14) 1) ①ペテロ、②ヨハネ、③ヤコブ、④アンデレ、⑤ピリポ、⑥トマス、⑦バルトロマイ、⑧マタイ、⑨アルパヨの子ヤコブ、⑩熱心党員シモン、⑪ヤコブの子ユダ*は、イエスの母、婦人たち、イエスの兄弟たちとともに祈りに専念した。	＊マタ(10. 3)ではタダイ
	④12 使徒職の補欠――ペテロの提言(15～26) 1)裏切者ユダはまっさかさまに落ち、死んだ場所は「アケルダマ*」という。 2)「その職はほかの人に取らせよ**」 3)バルサバと呼ばれる別名ユストというヨセフとマッテヤの二人の候補の中から主の御心をたずねてくじを引いた結果マッテヤを加えた	＊参照　詩 69. 25 ＊＊参照　詩 109. 8
2	①五旬節の日の聖霊降臨 (1～13) 1)突然天から風のような響きと共に炎のような分かれた舌が現われ、ひとりひとりの上にとどまった。 2)みなが聖霊に満たされ、聖霊の導きで、他国の言葉で話し出した。 3)エルサレムに居た大勢の他国人は、彼らが自国語で話すのに驚いた。	五旬節（ペンテコスト）過越の祭から 50 日目
	②ペテロの演説(14～36) 1)「神はナザレ人イエスによって、力あるわざと奇蹟によって、神はあなたがたに、この方のあかしをされたのです。」 2)「あなた方は、この方を不法な者の手によって十字架にかけて殺しました。」 3)「神はこのイエスをよみがえらせました。私たちはみなそのことの証人です。」 4)「イエスが御父から聖霊を受けて、この聖霊をお注ぎになったのです。」 5)「神が、今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。」	

使徒の働き
(便覧)

章	記　　述	注
	③演説の結果(37～41) 1)人々はこれを聞いて心を刺され、「私たちはどうしたらよいでしょうか」 2)「悔い改めなさい。イエス・キリストの名によってバプテストを受けなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう」 3)三千人ほどがバプテスマを受け、弟子に加えられた。	
	④初代信者団の生活 (1) (42～47) 1)一同の心に恐れが生じ、教えを守り、交わりをし、パンを裂き、祈りをしていた。 2)信者は皆一緒に居て、一切のものを共有していた。 3)資産や持ち物を売っては、それぞれの必要に応じて分配していた。 4)神を賛美し、主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった。	
3	①ペテロとヨハネ足なえの男をいやす(1～11) 1)「美しの門*」前の施しを求める生まれつき足のきかない男。 2)ペテロとヨハネが午後3時の祈りにこの宮の門を入ろうとした。 3)「金銀は私にはない。しかし私にあるものを上げよう。ナザレのイエス・キリストの名によって歩きなさい。」 4)彼はおどり上がって、まっすぐに立ち、歩き出し、神を賛美した。	＊神殿の東側にある「ニカノル門」のこと
	②ペテロ、人々に悔い改めを説く(12～26) 1)「イエスによって与えられる信仰が、この人を皆さんの目の前で完全なからだにしたのです。」 2)「あなたがたは、イエスを拒み、殺しました。神はイエスをよみがえらせました。」 3)「あなたがたの罪をぬぐい去って頂くために、悔い改めて神に立ち返りなさい。」	
4	①ユダヤ議会の前に立つペテロとヨハネ(1～22) 1)ペテロ、ヨハネは捕らえられ、一晩留置された。 2)翌日、大祭司、祭司、指導者、長老、学者たちによる議会招集。 3)ペテロの弁明「あなた方が十字架につけ、神が死者の中からよみがえらせたナザレ人イエス・キリストの御名によるのです。」 4)議会はなすすべもなく、二人をおどした上で釈放。	議会(サンヘドリン) ユダヤの最高議会・法廷
	②使徒たちの誓い(23～31) 1)釈放された二人は仲間と共に心を一つにして神に祈った。 2)「御手を伸ばしていやしを行わせ、あなたの聖なるしもべイエスの御名によって、しるしと不思議なわざを行わせて下さい。」 3)その場所が震い動き、一同は聖霊に満たされ、神のことばを大胆に語り出した。	

使徒の働き
(便覧)

章	記　　述	注
	③初代信者団の生活(2)(32～37) 1)信者は、心を一つにして持ち物を全て共有した。 2)地所や家を持っている者はそれを売り、代金を使徒たちの足もとに置いた。 3)キプロス生まれのバルナバ(慰めの子)と呼ばれるヨセフもそうした。 4)その金は必要に従って、おのおのに分け与えられた。	
5	①アナニヤとサッピラ(1～11) 1)アナニヤと妻サッピラは持ち物を売った代金の一部を私有化した。 2)ペテロは言った。「あなたは人を欺いたのではなく、神を欺いたのだ。」 3)アナニヤはこれを聞くと倒れて息が絶えた。 4)外出して帰った妻サッピラはこのことを知らず、同じく嘘を言った。 5)ペテロの言により、たちまちペテロの足もとに倒れ、息が絶えた。	
	②使徒たちのおこなった奇蹟(12～16) 1)使徒たちによって大勢の病人や、汚れた霊に苦しめられている人々がいやされた。 2)主を信ずる者は男も女もますますふえていった。	
	③守旧派の迫害(17～33) 1)大祭司、サドカイ派は、使徒たちを捕らえ、留置したが、主の使いが牢の戸を開き、伝道するようにさせた。 2)使徒達を議会に立たせ、糾弾したがペテロは答えた。 3)「人に従うより神に従うべきです。先祖の神は、あなたがたが十字架にかけて殺したイエスをよみがえらせたのです。」	
	④ガマリエルの説得(34～42) 1)パリサイ人で尊敬されている律法学者ガマリエル*が言った。 2)「あの人たちを放っておきなさい。もしその計画や行動が人から出たものなら自滅するでしょう。しかし神から出たものなら、滅ぼすことができないし、あなたがたは神の敵対者となるでしょう。」 3)彼らは使徒たちをむちで打ち釈放した。彼らは毎日、宮や家々で教え、イエスがキリストであることを宣べ伝え続けた。	＊パウロも弟子であった
6	①七人の選定(1～7) 1) 信者団の日常生活の指導者として選任。 2)①ステパノ、②ピリポ、③プロコロ、④ニカノル、⑤テモン、⑥パルメナ、⑦ニコラオ	
	②ステパノ告訴さる(8～15) 1)リベルテン*の会堂の人々が民衆と長老、律法学者たちを扇動、ステパノを捕らえ、議会に引っ張り出した。	＊「自由にされた者」奴隷から解放されたユダヤ人、その子孫

使徒の働き
(便覧)

章	記　　述	注
7	①ステパノの演説(1～53) 1)父祖アブラハムから説きはじめ、イスラエル人の神への背信と預言者への迫害を糾弾。	
	②ステパノの殉教(54～8/1) 1)人々は彼を追い出して、石で打ち殺した。 2)ステパノはその時「主よ、この罪を彼らに負わせないでください。」と言って眠りについた。	西暦 33 年(35 年)
8	3)人々の着物の番をしていたサウロ*という青年は、ステパノを殺すことに賛成していた。	＊後のパウロ(初登場)
	①エルサレム教会の迫害による分散(1～3) 1)迫害が起こり、使徒たち以外の者はユダヤとサマリヤの諸地方に散らされた。 2)サウロは教会を荒らし、男も女も牢に入れた。	
	②サマリヤ人の回心(4～17) 1)ピリポ*のサマリヤ伝道。男も女もバプテスマを受けた。 2)ペテロとヨハネも同地へ派遣。二人がバプテスマを受けた男女に手を置くと、彼らは聖霊を受けた。	＊6①2)ピリポと同一人物
	③魔術師シモン(18～25) 1)シモンもバプテスマを受け、しるしとすばらしい奇蹟に驚いていた。 2)彼は金を使徒たちに持参、「私が手を置いた者がだれでも聖霊を受けられるように、この権威を下さい」と依頼。 3)ペテロは言った。「あなたの金はあなたと共に滅びるがよい。」 「この悪事を悔い改めて、主に祈りなさい。赦されるかもしれません。」 4)シモンは答えて言った。「私のために祈ってください。」	
	④ピリポとエチオピアの宦官(26～40) 1)エチオピア女王カンダケの高官がエルサレム礼拝から馬車で帰る途中 2)ピリポ*は同道し、イザヤ書 53 章を解説し、イエスを宣べ伝えた。 3)ピリポは宦官にバプテスマを授けた。 4)ピリポは主の霊により連れ去られ、アゾトからカイザリヤに行った。	＊同上
9	①サウロ(パウロ)の回心(1～18) 1)ダマスコの信者迫害のため出向く途中、突然、天からの光*。 2)彼は地に倒れて「サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか」という声を聞いた。 3)「主よ。あなたはどなたですか」「わたしはあなたが迫害しているイエスである。」 4)サウロの目は見えなくなり、手を引かれてダマスコに入った。	西暦 33 年 (35 年) ＊イエスとの出会い参照　1コリ 15.8

使徒の働き
(便覧)

章	記　　述	注
	5)アナニヤに主が幻の中で「サウロのところに行け」と言われた。アナニヤの抵抗。 6)「行きなさい。あの人はわたしの名を、異邦人**、王たち、イスラエルの子孫の前に運ぶ、わたしの選びの器です。」 7) アナニヤは出かけ、サウロの上に手を置くと、サウロの目からうろこが落ちて見えるようになった。彼はバプテストを受けた。	**異邦人の使徒 参照ロマ　11.13 15.16 ガラ　1.16 2.7 1テモ　2.7
	②パウロの登場(19～30) 1)サウロはただちに、イエスは神の子であると宣べ伝え始めた。 2)彼は力を増し、ダマスコのユダヤ人の憎しみを買い、殺害の陰謀*。 3)陰謀が洩れ、弟子達が彼をかごに乗せ、夜中に町の城壁伝いにつり降ろす。 4)彼はエルサレムに行く**が、弟子たちの仲間に入れなかった。 5)バルナバは彼を引き受け弁護したのでエルサレムの教会に受け入れられた。 6)しかし、彼を殺そうと狙うユダヤ人を避け、カイザリヤ経由タルソへ送り出した***。	*ダマスコ事件 参照　2コリ 11.32 **第1回エルサレム訪問(回心の3年後) ***参照　ガラ 1.21
	③ペテロの奇蹟(31～43) 1)教会は、ユダヤ、ガラテヤ、サマリヤの全地に築かれ、信者の数は増えた。 2)ペテロ、ルダに巡回し、中風の男アイネヤをいやした。 3)ヨッパに居た女の弟子タビタが病死したので、ペテロを迎えにやった。 4)ペテロが遺体に「タビタ。起きなさい。」と言うと、彼女は目をあけ起き上がった。 5)このことがヨッパ中に知れ渡り。多くの人々が主を信じた。	
10	**[ペテロの異邦人伝道]** ①コルネリオの見た幻影 (1～8) 1)カイザリヤ駐在イタリヤ隊の百人隊長コルネリオは敬虔な人*で、神を恐れかしこみ、ユダヤ人に多くの施しをなし、いつも祈りをしていた。 2)ある日の午後、幻の中で神の御使いを見た。 3)御使いは言った、「ヨッパに人をやってシモン(ペテロ)という人を招きなさい」 4)彼はしもべ二人、側近の敬虔な兵士一人をヨッパへ遣わした。	*ユダヤ教を受け入れているが割礼を受けていない異邦人
	②ペテロの見た幻影 (9～16) 1)その翌日、祈りのための屋上で、ペテロはうっとりと夢ごこちになった。 2)天が開けており、大きな敷布のようなものが四隅をつるされて降りてきた。 3)その中には、四つ足の動物や、はうもの、また空の鳥の全種が入っていた。 4)「ペテロ。さあ、ほふって食べなさい。」という声。 5)「主よ。それはできません。きよくない物や汚れた物*を食べたことが	*参照　ロマ 14.14 1テモ 4.4 テト 1.15

使徒の働き
(便覧)

章	記　　述	注
	ありません。」 6)「神がきよめた物をきよくないと言ってはならない。」 7)こんなことが三回あって後、入れ物は天に引き上げられた。	
	③ペテロとコルネリオ(17～48) 1)そこへコルネリオから遣わされた人が訪ねてきた。 2)御霊の声、「ためらわずに彼らと一緒に行きなさい。」 3)翌日ペテロは、ヨッパの兄弟たち数人同行し、カイザリヤに出発。 4)ペテロを迎えてコルネリオは足もとにひれ伏し拝んだ*。 5)ペテロは言った。「お立ちなさい。私もひとりの人間です。」 6)お互いの幻影の啓示を打明け合う。 7)ペテロ、イエスの福音を伝う。「この方を信じる者はだれでもそのみ名によって罪の赦しが受けられる、とあかししています。」 8)これらのみことばに耳を傾けていた異邦人すべてに聖霊がお下りになった。 9)イエス・キリストの名によってバプテスマを受けるようペテロは命じた。	＊参照　黙 19.10 22.8
11	①エルサレム教会が異邦人回心に驚く(1～18) 1)ペテロがエルサレムに上った時、使徒や兄弟たちが非難した。 2)ペテロは事の次第を順序正しく説明した。 3)「神が私たちに下さったのと同じ賜物を異邦人にもお授けになったのなら、どうして私などが神のなさることを妨げることができるでしょう。」 4)人々はこれを聞いて沈黙し「それでは神は、いのちに至る悔い改めを異邦人にもお与えになったのだ」と言って、神をほめたたえた。	
	②異邦人教会がアンテオケに誕生(19～30) 1)アンテオケ*の人々がイエスの福音を信じ、主に立ち返った。 2)エルサレムの教会はバルナバをアンテオケに派遣。彼は立派な人物で、聖霊と信仰に満ちていた。 3)大勢の人が主に導かれた。 4)バルナバはサウロを捜しにタルソ**へ行き、アンテオケに連れてきた。 5)そしてまる一年間、教会に集まり、人々を教えた。 6)預言者たちがエルサレムから来て、大ききん***を預言。それはクラウディオの治世に起こった。 7)弟子たちは救援物資を集め、バルナバとサウロの手によってユダヤの長老達に送った。	＊シリヤの首都、ローマ帝国第三の国際都市。(人口 50 万) ＊＊パウロの故郷。アテネ、アレキサンドリヤと並ぶ学問の都市 ＊＊＊西暦 46 年頃起こる
12	①ヤコブの殉教とペテロ捕縛 → 御使いによる解放(1～19) 1)ヘロデ王*の迫害。ヨハネの兄弟ヤコブを剣で殺した。 2)次にペテロを捕らえて牢に入れ、監視させた。 3)夜、主の御使いが現われ、ペテロを救い出し、解放した。 4)そこでマルコ**の母マリヤの家に行った。大勢の信者が集って祈ってい	＊ヘロデ・アグリッパ一世(ヘロデ大王の孫) ＊＊後注 2 参照

使徒の働き
(便覧)

章	記　　述	注
	たが、彼を見て非常に驚喜した。 5)朝、ヘロデの陣営で大騒ぎ。番兵達を処刑するように命じヘロデはカイザリヤ***に下っていった。	***ヘロデ大王が建設した都市。ローマ総督も駐在
	②ヘロデ王の死(20～25) 1)ヘロデはツロとシドンの人々に強い敵意を抱いていた。 そこで彼らは侍従に取り入り、和解を求めた。 2)ヘロデ王の演説に民衆は「神の声だ。」と叫び続けた。 3)たちまち主の使いがヘロデを打ち、彼は虫にかまれ息が絶えた。 4)主のみことばはますます盛んになり、広まっていった。 5)任務を果たしたバルテバとサウロは、マルコ*を連れて帰ってきた。	＊後注2参照。
13	**[パウロの第一回伝道旅行]** ①バルナバとパウロの派遣（1～3） 1)アンテオケの兄弟たち、預言者や教師が主を礼拝し、断食していると 2)聖霊が「バルナバとパウロを聖別して、わたしが召した任務につかせなさい」と言われた。 3)彼らはふたりの上に手を置いてから、送り出した。	46 - 47年(48 - 49年)
	②キプロスの伝道(4～12) 1)二人はヨハネ*を助手として連れ、キプロス島に渡った。 2)パポスでにせ預言者バルイエスというユダヤ人魔術師エルマに出会った。 3)地方総督セルギオ・パウロは賢明な人であって、神のことばを聞きたいと思ったが、魔術師エルマが邪魔しようとした。 4)サウロ（パウロ）が聖霊に満たされ、彼に向かうと、彼は盲になった。 5)この出来事を見た総督は、主の教えに驚嘆して信仰に入った。	＊マルコ　後注2参照
	③ピシデヤのアンテオケにて(13～52) 1)助手ヨハネ（マルコ）*は一行から離れてエルサレムに帰った。 2)ピシデヤのアンテオケ**の会堂で安息日に話してくれるよう二人に頼んだ。 3)パウロが「出エジプト」から「イエスのよみがえり」までのことを話し、罪の赦しの福音をのべ伝えた。彼らは次の安息日にも同じことについて話すよう頼んだ。 4)地元のユダヤ人はねたみに燃え、パウロ達に反対した。 5)パウロは言った。「あなたがたが拒んだので、私たちは異邦人に向かいます。」 6)異邦人たちは喜び、永遠のいのちに定められていた人たちは、みな信仰に入った。 7)ユダヤ人たちは町の有力者を扇動して、パウロとバルナバを迫害し、追い出した。	＊後注2参照 ＊＊参照　2テモ3.11

使徒の働き
(便覧)

章	記　　述	注
14	①イコニウムにて（1～5） 1)二人は会堂に入り話をすると、ユダヤ人もギリシヤ人も大勢が信仰に入った。 2)しかし信じようとしないユダヤ人たちは異邦人をそそのかして、使徒たちを石打ちにしようとした*。	＊参照　2テモ3.11
	②ルステラにて(6～20) 1)ルステラに難を逃れた二人は、そこで福音の宣教を続けた。 2)生まれながらの足なえの人をパウロがいやした。 3)群衆が二人を神とし、いけにえを供えようとした時*、二人は衣を裂いてとめた。 4)アンテオケとイコニウムからユダヤ人が来て、群衆を抱き込み、パウロを石打ちにした**。 5)しかしパウロは死なず、立ち上がって翌日、バルナバと共にデルベへ向かった。	＊参照　1コリ 8.4 **参照　2コリ 11.25 1テサ2.16 2テモ3.11
	③デルベからアンテオケへの帰還(21～28) 1)デルベで二人は福音を宣べ、多くの人を弟子としてから、ルステラ、イコニウム、アンテオケに引き返した。 2)「私たちが神の国に入るには、多くの苦しみ*を経なければならない」と言って、 3)教会ごとに長老たちを選び、彼らを主にゆだねた。 4)二人はピシデヤを通ってパンフリヤに着き、船でアンテオケ**に帰った。 5)異邦人に信仰の門が開かれたことを報告し、かなり長い期間そこに留まった。	＊参照 1テサ 3.3 2テモ 3.12 1ペテ 2.21 **「ガラテヤ人への手紙」執筆（48－49年頃）
15	**[エルサレムの使徒会議]** ①「割礼論争」（1～5） 1)ある人々が「モーセの慣習に従って割礼*を受けなければ救われない」と教えた。 2)パウロやバルナバと彼らとの間に激しい対立と論争が生じたので 3)この問題について使徒や長老たちと話し合うため、エルサレムに上ることになった。 4)エルサレムに着くと、神が彼らとともにいて行なわれたことを皆に報告した。 5)パリサイ派の信者は「異邦人にも割礼を」と主張した	48年（50年） ＊参照　1コリ7.18 ガラ 5.2
	②会議の模様（6～21） 1) 会議が開催され激しい論争があって後、ペテロが立ち上がって言った。 2)「神は異邦人にも同じ聖霊を与えて、彼らの心を信仰によって聖めてくださったので割礼は不要。私たちも彼らも、ただ、イエス・キリストの恵みによって救われた*のです。」 3) 全会衆は沈黙し、バルナバとパウロが異邦人の救いの話をするのに傾	＊参照　ロマ 3.24 5.15 エペ 2.5 エペ 2.8

使徒の働き
（便覧）

章	記　　述	注
	聴した。 4）ヤコブの結論。割礼は不要。但し、偶像に供えた物**、不品行、絞め殺した物と血を避けること。	**参照　1コリ8. 7
	③結果の通知（22～33） 1）パウロとバルナバと一緒にユダとシラス*を選び、上記の結論を記した書信を託し、アンテオケへ派遣し、異邦人に手渡された。 2）それを読んだ人々は、その励ましによって喜んだ。 3）ユダとシラスも口頭で彼らを励まし、暫くの滞在の後エルサレムに戻った。	*別名シルワノ
	［パウロの第二回伝道旅行］ ④パウロとバルナバの反目（35～41） 1）パウロはバルナバに伝道のためアンテオケから他の町へ行くことを提案。 2）バルナバは、マルコとも呼ばれるヨハネ*を連れて行くことを主張。 3）パウロは反対。マルコがパンフリヤで別行動をとった**ので。 4）激しい反目となり、バルナバはマルコを連れてキプロスへ渡った。 5）パウロはシラスを選び、シリヤ・キリキヤを通り、諸教会を力づけた。	48 - 51 年(50 - 53 年) *後注 2 参照 **13 ③ 1）参照
16	①小アジア伝道（1～10） 1）パウロはデルベ経由ルステラに着いた。テモテ*という弟子がいた。 2）テモテはギリシア人の父、ユダヤ婦人を母とし、評判が良かった。 3）パウロはテモテを連れて行きたかったので、ユダヤ人の手前、割礼を受けさせた。 4）街々を巡回し、諸教会は信仰を強められ、人数を増やした。 5）それから彼らはアジヤでみことばを語ることを聖霊によって禁じられた。 6）ビテニヤへ行こうとしたが、イエスの御霊がそれをお許しにならなかった。 7）トロアス**に来たある夜、パウロは幻を見た。ひとりのマケドニヤ人が「マケドニヤに渡って来て私たちを助けてください」と言った。 8）神が招いて彼らに福音を宣べさせるのだと確信し、私たち***は出かけることにした。	*後注 3 参照 **マケドニヤへの船便発着地 参照　2コリ2. 12 ***ルカ同行
	②ピリピ伝道（最初のヨーロッパ伝道）（11～40） 1）マケドニヤ地方第一の植民都市ピリピに行き、川岸で人々に話した。 2）テアテラ市の紫布の商人で神を敬うルデヤという女は心を開いた。 3）彼女もその家族もバプテスマを受け、自家に招待した。 4）占いの霊につかれた若い女奴隷からその霊を追い出した。 5）女奴隷の主人はパウロとシラスを捕らえ、長官の前に引き出した。 6）長官たちは、二人の着物をはいでむちで打たせてから*牢に入れた。 7）真夜中ごろ、二人が神に祈りつつ賛美の歌を歌って**いるとき大地震が起こった。	*参照　1テサ2. 2 2コリ11. 25 **参照　エペ 5. 19

使徒の働き
(便覧)

章	記　　述	注
	8) 獄舎のとびらがあいて、囚人の鎖が解けてしまった。 9) 看守は囚人が逃げてしまったと誤解し、自殺しようとしたのでパウロが止めた。 10) 看守は震えながらひれ伏し、「救われるために何をしなければいけないか」ときいた。 11)「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」 12) 看守は二人の打ち傷を洗い、二人を引き取り、家族全部と共にバプテスマを受けた。 13) 翌朝、長官は釈放命令を出したが、二人がローマ人であったことを知って恐れ、自身出向いてわびを言い、町から去ってくれるよう頼んだ。 14) 二人はルデヤの家に寄り、兄弟たちを励ましてから出て行った。	
17	①テサロニケ伝道(1～9) 1) アムピポリスとアポロニヤを通ってテサロニケへ行った。 2) パウロはユダヤ人の会堂に入って「イエスはキリストだ」と論じた。 3) 幾人か、またギリシヤ人も大勢従った。 4) しかし、ねたみにかられたユダヤ人は町のならず者を集めて暴動を起こした*。 5) 二人を迎え入れたヤソン**と兄弟たちを迫害したが、パウロたちは逃れた。	＊参照　1テサ2.16 ＊＊参照　ロマ 16.21
	②ベレヤ伝道(10～15) 1) パウロとシラスはベレヤに行った。 2) 人々は熱心にみことばを聞き、毎日聖書を調べた。 3) 多くの者（含ギリシヤの貴婦人や男子）が信仰に入った。 4) テサロニケのユダヤ人たちがまたもや来て騒ぎを起こした。 5) 兄弟たちはパウロを送り出し、アテネまで連れて行った。 6) シラスとテモテはベレヤに踏みとどまったが、パウロはアテネに来るよう命じた。	
	③アテネ伝道(16～34) 1) パウロはアテネ*の町が偶像でいっぱいなのを見て心に憤りを感じた。 2) エピクロス派とストア派の哲学者がパウロをアレオパゴス**に連れて行った。 3) パウロはそこで、偶像崇拝の非と悔い改めとイエスの復活を論じた。 4) 死者の復活のことを聞くと、ある者はあざ笑い「またいつか聞くことにしよう。」と言った。 5) しかし、アレオパゴスの裁判官デオヌシオや女ダマリス等、信仰に入った人もいた。	＊ギリシヤのアカヤ地方の首都。自由都市。文化の中心地 ＊＊アテネの西にある丘 市民評議会開催場所
18	①コリント伝道(1～17) 1) パウロはアテネを去ってコリントへ行った。 2) そこでアクラとプリスキラ*夫妻に会い、共に住んで天幕作り**の仕事をした。	＊後注5参照 ＊＊参照　2テサ 3.8

使徒の働き
（便覧）

章	記　　述	注
	3）シラスとテモテも合流したので会堂でみことばを論じた。 4）しかしユダヤ人らが反抗して暴言を吐いたので、去ってテテオ・ユストの家に入った。 5）会堂管理者クリスポ***は一家をあげて主を信じた。 6）ある夜、主は幻によって「語り続けなさい」と言われたので、パウロは1年半ここに腰を据えて*みことばを教え続けた。 7）ガリオ**がアカヤの総督の時、ユダヤ人はパウロを訴えた。 8）しかしガリオは取り合わず、彼を法廷から追い出した。 9）彼らは会堂管理者ソステネ***を捕え、打ちたたいた。	***参照　1コリ1.14 ＊「テサロニケ人への手紙1.2」執筆（51年頃） **哲人セネカの兄。51年アカヤの総督になる。 ***参照　1コリ1.1
	②アンテオケへ帰還(18～22) 1）パウロはそこに長らく滞在してからシリヤに向けて出帆した。 2）プリスキラとアクラ*も同行した。 3）パウロは一つの誓願を立て、ケンクレヤで髪をそった。 4）エペソに着くと、会堂でユダヤ人たちと論じた。 5）彼らはもっと長く留まるよう頼んだが、彼はプリスキラとアクラを残して船出した。 6）カイザリヤに上陸し、エルサレムに上り、教会に挨拶し、アンテオケへ行った。	＊後注5参照
	［パウロの第三回伝道旅行］ ③アポロ（23～28） 1）パウロたちはまた出発し、ガラテヤ地方とフルギヤを巡って力づけた。 2）アレキサンドリヤ生まれで雄弁なアポロ*というユダヤ人がエペソに来た。 3）彼は聖書に通じていたが、ヨハネのバプテスマしか知らなかった。プリスキラとアクラ**は神の道をもっと正確に説明した。 4）そして彼を励ましアカヤへ送り出し、そこで彼は「イエスはキリストである」と力強く公然と論破し、信者たちを大いに助けた。	53年～ ＊参照　1コリ1.12／3.5／3.22／4.6／16.12 テト3.13 **後注5参照
19	①エペソ伝道（1～22） 1）アポロがコリントに居る間に、パウロはエペソ*に来た。 2）弟子たちがヨハネのバプテスマしか受けていないのを聞いて、主イエスの御名によってバプテスマを授けた。すると聖霊が彼らに臨まれた。（12名程） 3）パウロは2年間**ツラノの講堂で毎日論じた。 4）パウロの身につけている手ぬぐいや前掛けを病人に当てると、悪霊は出ていき治った。 5）ユダヤの祭司長スケワの七人の息子（魔除け祈祷師）たちがその真似をすると、悪霊に逆襲され、裸にされ、傷を負った。 6）そのことがユダヤ人やギリシヤ人に知れ渡り、主イエスの御名をあがめるようになった。 7）魔術を行なっていた者がその書物を皆の前で焼いた。（値段は銀貨5万枚） 8）パウロは御霊の示しでマケドニヤ・アカヤ経由エルサレムに行く***こ	＊小アジアの中心都市 **コリント教会へ3通の手紙執筆。その第2通目が「コリント人への手紙1」（55－56年頃） ***参照　ロマ15.25

使徒の働き
(便覧)

章	記　　述	注
	とにした。 9)「その後、ローマも見なければ****ならない」と言った。 10) テモテとエラストを先にマケドニヤに送り出し、彼はなお同地に留まった。	****参照　ロマ 1.10
	②銀細工人の騒動（23～41） 1) デメテリオという銀細工人が、銀で大女神アルテミス神殿の模型を作り、かなりの収入を得ていた。 2) しかし、パウロが偶像崇拝を禁じていることに危機を感じ、同業者たちや市民をそそのかし、パウロの同行者マケドニヤ人ガイオとアリスタルコを捕え、劇場になだれ込み、混乱状態となった。 3) 町の書記役が群衆をなだめ、その集まりを解散させた。	
20	①マケドニヤからトロアスへ（1～12） 1) パウロたちは騒ぎが治まるとマケドニヤへ出発し、ギリシヤまで来た。 2) ユダヤ人の陰謀があったので、シリヤへ船出することをやめ、マケドニヤに出発した。 3) 同行者はソパテロ、アリスタルコ、セクンド、ガイオ、テモテ、テキコ*、トロピモ。 4) 彼らは先発してトロアスで待ち、私たちはピリピから 5 日の航海の後、落ち合った**。 5) そこで 7 日間滞在し、最後の日夜中まで人々と話し合った。 6) ユテコという青年が話を聞いている内に眠気がさし、三階から落下し死んだ。 7) パウロは彼の上に身をかがめ抱き起し、生き返らせた。	「コリント人への手紙 2」執筆。(56 - 57 年頃) 「ローマ人への手紙」執筆。(56 年頃) ＊参照　エペ 6.21 コロ 4.7 2 テモ 4.12 **ルカ同行
	②ミレトまで（13～15） 1) パウロは陸路をとり、私たち*は船でアソスに向かい、そこでパウロと落ち合い、船でミテレネに着いた。 2) そしてキヨス、サモスを経てミレトに着いた。	＊ルカ同行
	③エペソの長老たちと会見（16～38） 1) パウロは旅路を急いでいたので、エペソに寄らず、逆に同地の長老たちを招いた。 2) パウロは長老たちに「もう二度と私の顔を見ることはない」と予言。 3)「なわめと苦しみが待っている」が、「自分の走るべき行程を走り尽くし、主イエスから受けた神の恵みの福音をあかしする任務を果たし終えることができるなら、私の命は少しも惜しいとは思いません。」 4) みなは声をあげて泣き、パウロの首を抱いて口づけし、船まで見送った。	
21	①カイザリヤまで（1～14） 1) 私たち*は出帆し、コス - ロドス - パタラ。そこで船を乗り換え、ツロに上陸。7 日間滞在。	＊ルカ同行

使徒の働き
（便覧）

章	記　　述	注
	2）同地の弟子たちは、御霊に示されてエルサレムに上らぬようにパウロに忠告した。 3）しかし私たちは、ツロ - トレマイ - カイザリヤに着きピリポ**の家に滞在。 4）預言者アガポがユダヤから来て、パウロの帯を取り、自分の両手・両足を縛って、パウロがエルサレムでこのようになると聖霊の御告げを伝えた。 5）パウロは「主イエスの御名のためなら死をも辞さない」と言った。	**8②1）から 20 年後
	②エルサレム上り（15～26） 1）数日たって私たちはエルサレムに上った。兄弟たちは喜んで迎えた。 2）次の日、ヤコブを訪問、そこに長老たちが集っていた。 3）パウロは異邦人の入信を報告、彼らは神をほめたたえた。 4）しかし律法に熱心なユダヤ人がパウロを誤解しているので、誤解を解くため、誓願を立てている四人の面倒を見るように忠告。 5）パウロはその人たちと共に宮に入り、7 日間の清めに入った。	
	③パウロ捕えられる（27～40） 1）その 7 日間がほとんど終わる頃、アジヤから来たユダヤ人が全群衆をあおりたて、町中が大騒ぎとなった。 2）人々は殺到してパウロを捕え、殺そうとした。 3）ローマ軍の千人隊長が兵と共に駆けつけ、それを止めた。 4）彼は事情を聴取しようとしたが、騒がしさのためわからず、パウロを群衆の暴行から守るため、二つの鎖につないで兵営に連れ込もうとした。 5）この時パウロはギリシヤ語で千人隊長に、民衆に話させてくれるよう頼んだ。許されてパウロは階段の上に立ち、ヘブル語で話し出した。	
22	①パウロの弁明（第 1 回）（1～21） 1）生い立ち（キリキヤのタルソ生まれのユダヤ人）教育（ガマリエル*のもとで律法について厳格な教育） 2）キリスト教徒への迫害 3）ダマスコ門外でイエス・キリストとの出会い**。 4）キリストの弟子アナニヤから「バプテスマを受け自分の罪を洗い流しなさい」 5）夢の中で主が「エルサレムを離れなさい。わたしはあなたを遠く異邦人に遣わす」と言われたことなどを演説。	*5④1）参照 **9①2）参照 参照　1 コリ 15.8
	②千人隊長（22～30） 1）ここまで聞いて群衆は再び騒ぎ出したので、千人隊長はパウロを兵営に移し、むちを当てて取り調べを命じた。 2）しかし彼がローマ市民であることを知って、千人隊長は恐れた。 3）翌日、千人隊長は祭司長たちと全議会*を招集し、パウロを彼らの前に立たせた。	*サンヘドリン 4①参照

使徒の働き
（便覧）

章	記　　述	注
23	①議会におけるパウロ（1～11） 1）大祭司アナニヤ*との争い。 2）サドカイ派とパリサイ派の不一致を見て取って、パウロは「復活」論争を持ち出す。議会は二つに割れ混乱した。 3）サドカイ派は復活はなく、御使いも霊もないと言っていた。 4）千人隊長は力ずくでパウロを混乱の議会から引き出し兵営へ連行。	＊48 - 58 年大祭司
	②ユダヤ人の盟約（12～22） 1）その夜、主がパウロのそばに立って「ローマ行」を予告された。 2）ユダヤ人 40 人以上がパウロ殺害を誓い、実現するまで飲み食いせず。 3）彼らは祭司長、長老たちにパウロ連れ出しの謀計を持ちかけた。 4）しかしパウロの姉妹の子が耳にし、パウロに知らせ、未然に防いだ。	
	③カイザリヤへ護送（23～25） 1）千人隊長は総督ペリクス宛手紙と共にパウロをカイザリヤに護送させた。 2）歩兵 200 人、騎兵 70 人槍兵 200 人と共に、夜中アンテパトリスに着いた。 3）その後、騎兵たちのみでカイザリヤへ護送。 4）手紙を読んで総督は、ヘロデの官邸*に彼を守っておくよう命じた。	＊ヘロデ大王が建設。当時はローマ総督の官邸。
24	①ユダヤ人の訴え（1～10） 1）5 日の後、大祭司アナニヤたちが下ってきてパウロを総督に訴えた。 2）総督はパウロに話すようにと合図した。	
	②パウロの弁明（第 2 回）（11～23） 1）「義人も悪人も必ず復活するという望み」をパウロは表白。 2）総督ペリクスはこの道について相当詳しく知っていたので、千人隊長ルシヤが下ってくるまで、裁判を延期した。	
	③総督ペリクス（24～27） 1）数日後ペリクスはユダヤ人妻ドルシラと共にパウロに信仰の話を聞いた。 2）しかしパウロが「正義と節制と審判」を論じたので、ペリクスは恐れを感じた。 3）彼はパウロから金をもらいたい下心があり、またユダヤ人に恩を売るため、後任総督ポルキオ・フェストが 2 年後*に着任するまでパウロを牢につないだままにしておいた。	＊西暦 58 年
25	①パウロ、カイザルに上訴（1～12） 1）州総督に着任したフェストは 3 日後にエルサレムに上った。	

使徒の働き
(便覧)

章	記　　述	注
	2) 祭司長たちユダヤ人がパウロをエルサレムに呼び寄せるよう訴えた。 3) しかしフェストは、カイザリヤで裁判を行なった。 4) 訴えたユダヤ人たちは、パウロの罪を立証できないでいた。 5) フェストはユダヤ人の歓心を買おうとしてエルサレムでの裁判を持ちかけた。 6) しかし、パウロは拒否し、カイザル*に上訴した。 7) フェストは言った。「あなたはカイザルに上訴したので、カイザルのもとに行きなさい。」	＊当時の皇帝はネロ（58 - 68 年）
	②アグリッパ王（13～27） 1) 数日たってアグリッパ王*とベルニケがフェスト表敬にカイザリヤに来た。 2) フェストはパウロの一件を持ち出して彼らに事情説明した。 3) アグリッパは「私もその男の話を聞きたいものです」と言ったので、翌日威儀を整えて講堂に入り、パウロが連れて来られた。	＊ヘロデ・アグリッパ 2 世（ヘロデ大王の曾孫）
26	①パウロの弁明（第 3 回）（1～32） 1) パウロはアグリッパ王と大勢の前で話し始めた。 2)「神が私たちの先祖に約束されたものを待ち望んでいる希望の故に訴えられているのです。」 3) ダマスコでのイエス・キリストとの出会い、その後の伝道の経緯を話す。 4)「キリストは苦しみを受けること、また死者の中からの復活*によって、この民と異邦人とに最初に光を宣べ伝える、ということです。」 5) フェスト「気が狂っているぞ、パウロ。」パウロ「否。」 6)「アグリッパ王。あなたは預言者を信じておられますね。」 7) アグリッパ「あなたはわずかなことばで私をキリスト者にしようとしている。」 8) アグリッパはフェストに言った。「この人は、もしカイザルに上訴しなかったら、釈放されたであろうに。」	＊参照　1 コリ 15.20 コロ 1.18
27	**[パウロ、ローマへ護送される]** ①クレテ島まで（1～12） 1) 私たち*（テサロニケのマケドニヤ人アリスタルコ**も同行）が船でイタリヤへ行くことが決まったとき、パウロは他の数人の囚人と共にユリアスという百人隊長に引き渡され、アドラミテオの船で出帆した。 2) 翌日シドンに着き、ユリアスはパウロを親切に取り扱った。 3) ルキヤのミラ港でアレキサンドリヤの船に乗り換え、クレタ島の「良い港」（ラサヤの近く）に着いた。 4) 断食の季節***も過ぎ、航海が危険であったのでパウロは警告。 5) 百人隊長は従わず、クレテの港ピニクスまで行くことになった。	＊ルカ同行 **参照　コロ 4.10 ***10 月後半
	②暴風に遭遇（13～26） 1) まもなくユーラクロン（北東風）という暴風が吹いてきた。	

使徒の働き
(便覧)

章	記　　述	注
	2) 船は進むことができず、船具をはずして流れるに任せた。 3) 翌日人々は積荷を捨て始め、三日目、船具までも投げ捨てた。 4) 太陽も星も見えない日が幾日も続き、助かる望みも絶たれようとしていた。 5) 誰も長いこと食事をとらなかったが、パウロが神の御使いのお告げをもとに、助かることを予言し皆を元気づけた。	
	③破船 (27～44) 1) 14 日目の夜になって、陸地に近づいたように感じた。 2) 水夫たちが逃げ出そうとしたので、パウロは百人隊長に止めさせた。 3) 夜明け頃、パウロは一同に食事をとることを勧めて皆(276 人)が食べた。 4) 夜が明けて砂浜に向かったが、浅瀬に座礁した。 5) 兵士たちは囚人たちが逃げないよう殺してしまおうと相談した。 6) しかし百人隊長はパウロを助けようと、その計画を押さえた。 7) 皆泳いだり、板切れにつかまったりして無事陸に上がった。	
28	①マルタ島 (1～10) 1) 救われて、ここがマルタ島であることを知った。 2) 島の人々は火をたいてもてなしてくれた。 3) 一匹のまむしがはい出してきて、パウロの手に取りついた。 4) 人々はこれを見て、パウロは人殺しで正義の女神の罰を受けているのだと思った。 5) しかしパウロはそれを火の中に振り落とし、何の害も受けなかった。 6) 島の人々は考えを変えて「この人は神様だ」と言い出した。 7) 首長ポプリオが招待して 3 日間手厚くもてなしてくれた。 8) 彼の父が熱病と下痢で床に着いていたが、パウロが手を置いて祈って直した。 9) 島の他の病人たちも来て直してもらい、人々は非常に尊敬し、出立に必要な品々を用意してくれた。	
	②ローマへ (11～15) 1) 三か月後に私たちはアレキサンドリヤの船で出帆した。 2) シラクサに寄港し、三日間とどまり、レギオンに着いた。 3) 一日たつと南風が吹き始めたので、二日目にはポテオリに入港。 4) ここで兄弟たちに会い、七日間滞在の後、私たちはローマに到着。 5) 伝え聞いたローマの兄弟たちは、アピオ・ポロとトレス・タベルネまで出迎えてくれた。	
	③ローマにて (16～31) 1) ローマでパウロは番兵付きで自分だけの家に住むことを許された。 2) パウロは主だったユダヤ人たちを呼び集め、これまでの経緯を説明した。 3) 彼らはパウロのことについて何も知らずパウロの考えを直接聞きたいと申し出た。 4) 日を定めて大勢が来て、パウロは朝から晩まで神の国とイエスのこと	

使徒の働き
(便覧)

章	記　　述	注
	について語り続け、彼らを説得しようとした。 5) ある人々は彼の語ることを信じ、ある人々は信じようとしなかった。 6) こうしてお互いが一致せずに帰りかけたので、パウロはイザヤの預言を引いて警告した。「あなたがたは確かに聞きはするが決して悟らない」と。 7)「神の救いは異邦人に送られました。彼らは耳を傾けるでしょう」と。 8) パウロはそれから満2年間*この家でみなを迎え、大胆に神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストのことを教えた。 (完)	60-62年(62-64年) 4通の獄中書簡執筆。「コロサイ人への手紙」「ピレモンへの手紙」「エペソ人への手紙」(以上3通は一組にしてテキコに託す)「ピリピ人への手紙」

「使徒の働き」

パウロがローマ入獄中、傍らに付き添っていたルカが61年頃ローマにて執筆。
ルカはパウロの第二回伝道旅行の際、トロアスから同行してピリピまで行き、そこに数年滞在した。
第三回伝道旅行の帰途、ピリピから再びパウロに同行してエルサレムに行き、更にローマにも同行し、パウロがローマ幽閉中も常に一緒にいたと言われる。

注

1 その後のパウロ

2年間ローマで幽閉の後、63年頃釈放されたと思われる。エペソへ行き、テモテを牧会責任者として置き、マケドニヤへ行き、そこで「テモテへの手紙1」を書き、クレテへ行き、テトスを牧会者として残した。その後しばらく伝道旅行をし、(この間にイスパニヤ(スペイン)にも行ったか)ニコポリで「テトスへの手紙」を書き、その後トロアスへ行き(カルポのところに上着を残したまま)捕えられ、ローマへ護送される。ローマの獄中から「テモテへの手紙2」を書き、ネロの迫害に遭い、間もなく殉教したと考えられる(67年ごろ)。3通の手紙は牧会書簡と呼ばれる。

2 マルコ(ヨハネ)

本名ヨハネ。バルナバのいとこ。パウロの第一回伝道旅行でエルサレ

ムに帰ってしまったため、第二回伝道旅行の際マルコを連れていくかどうかで、パウロとバルナバが反目したが、後日パウロの同労者となった。ペテロとも親しかった。「マルコの福音書」の著者と考えられる。
参照　コロ 4.10　2 テモ 4.11　ピレ 24　1 ペテ 5.13

3 テモテ

父ギリシヤ人、祖母・母はユダヤ人。パウロ第二回伝道旅行の際ルステラで出会う。同労者として連れて行くためテモテに割礼を施した。第三回伝道旅行にも同行し、パウロがローマ幽閉中も一緒に居た。（ピリ 1.1）パウロ釈放後、エペソに同行。牧会者として残る。（1 テモ 1.2）後に殉教。パウロはテモテを愛した。「信仰による真実のわが子テモテ」（1 テモ 1.2）
参照　2 コリ 1.19　ピリ 2.20　コロ 1.1　1 テサ 1.1／3.6　2 テサ 1.1　ピレ 1.1

4 テトス

ギリシヤ人。パウロ、バルナバと共にエルサレム会議に出席。第三回伝道旅行の際パウロの代理としてコリント教会に派遣され、「コリント人への手紙 2」を届ける。またエルサレムの貧しい聖徒のための献金をコリントで募金。パウロがローマから釈放された後クレテに同行。牧会者として同地に残る。後にパウロはアルテマスかテキコをテトスの代わりとしてクレテへ送り、テトスをニコポリへ呼び寄せ、さらにダルマテヤ（イルリコ）へ派遣。有能な伝道者であり、「同じ信仰による真実のわが子テトス」（テト 1.4）と呼ばれ、テモテと共にパウロの片腕であった。
参照　2 コリ 7.6 - 7　ガラ 2.1 - 3／8.6&16　2 テモ 4.10

5 アクラとプリスキラ（本名プリスカ）

ポント生まれのユダヤ人夫妻。４９年、クラウディオ帝の「ユダヤ人ローマ追放令」によりコリントに移住。天幕作りをした。パウロを迎え、共にエペソへ移り、アポロにさらに正確に主の道を教えた。最終的にローマに戻る。
参照　ロマ 16.3　1 コリ 16.19　2 テモ 4.19

以上

出典

新改訳聖書（注解付）
エッセンシャル聖書辞典（山口昇監修）〈いのちのことば社〉

使徒の働き（付：ペテロ、ステパノ、パウロの演説）

ペテロ

1 五旬節聖霊降臨（2 章）

（エルサレム）

①ヨエルの預言（ヨエル 2.28-32）
聖霊を注ぐ。
主の名を呼ぶ者はみな救われる。
②ナザレ人イエス：在世中多くの奇蹟と不思議なみわざをした。
③あなたがたは彼を十字架につけて殺した。
④しかし神はこの方をよみがえらせた。
⑤先祖ダビデは死んで葬られたが、キリストの復活を予見した。
⑥神はイエスをよみがえらせた。私たちはみなそのことの証人。
⑦神の右に上げられたイエスが、父から約された聖霊を受けて、今、人々に注がれた。
⑧主ともキリストともされたイエスをあなたがたは十字架につけたのだ。
⑨悔い改めよ。バプテスマを受けよ。そうすれば聖霊を受ける。
⑩この曲がった時代から救われよ。

ステパノ

1 訴えられて議会の前で（7 章）

（エルサレム）

①父祖アブラハムがカランに住む以前メソポタミヤにいたとき、栄光の神が現われて「あなたの土地と親族を離れ、わたしが示す地に行け」と言われた。
②そこでアブラハムはカルデヤ人の地を出てカランに住んだ。そして父の死後、神は彼をそこからこの地に移された。
③この地を彼とその子孫に財産として与えることを約束された（この時アブラハムにまだ子どもはいなかった）
④神はまた言われた。「彼の子孫は外国に移り住み 400 年間奴隷にされ虐待されるが、彼らを奴隷とする国民はわたしがさばく。その後彼らはのがれ出て、この所でわたしを礼拝する。」（ここまで、創 11, 12, 15 章）
⑤神はアブラハムに割礼の契約を与えられる。
⑥イサクが生まれ、イサクにヤコブが生まれ、ヤコブに 12 人の族長が生まれた。
⑦族長たちはヨセフをねたんでエジプトに売り飛ばした。しかし神は彼とともにおられ、あらゆる患難から彼を救い出し、エジプト王パロの前で恵みと知恵をお与えになったのでパロは彼をエジプト王の家全体を治め

パウロ

1 第一回伝道旅行途上（13 章）

（ピシデヤのアンテオケ）

①イスラエルの神は、私たちの先祖たちを選び、民がエジプトに滞在していた間に強大にし、御腕を高く上げて彼らをその地から導き出してくださった。
②40 年間荒野で彼らを養われた。
③カナンの地で七つの民を滅ぼし、その地を相続財産として分配された。
（ここまでが 450 年間のできごと）
④その後サムエルの時代までは、さばき人たちを遣わされた。
⑤彼らが王をほしがったので神はベニヤミン族の人、キスの子サウルを 40 年間与えられた。
⑥彼を退けてダビデを王とされた。
「私はエッサイの子ダビデを見いだした。彼はわたしの心にかなった者で、わたしのこころを余すところなく実行する。」
⑦神はこのダビデの子孫から、約束に従ってイスラエルに救い主イエスをお送りになった。
⑧この方が来られる前にヨハネがイスラエルのすべての民に前もって悔い改めのバプテスマを宣べ伝えていた。
⑨ヨハネは一生を終える頃言った。
「その方は私のあとからおいでになります。私はその方のくつのひもを解く値打ちもありません。」
⑩この救いのことばが私たちに送られている。
⑪エルサレムの人々、その指導者たちは、イエスを認めず、イエスを罪に定めて、予言を成就させてしまった。
⑫死罪にあたる理由もないのに、イエスを殺すことを強要した。
⑬イエスについて書いてあることを全部成し終えて後、イエスを十字架から取り降ろして墓の中に納めた。
⑭しかし神はこの方を死者の中からよみがえらせた。
⑮イエスは、ご自分といっしょにガリラヤからエルサレムに上った人たちに幾日も現われた。その人たちが今、イエスの証人となっている。
⑯神はイエスをよみがえらせ、私たち子孫にその約束を果たされた。
⑰神がよみがえらせた方は朽ちることがなかった。
⑱だから罪の赦しが宣べられているのはこの方によることをよく知っておいてください。
⑲モーセの律法によって解放されることのできなかった点について、信じる者はみなこの方によって解放されるのです。

使徒の働き（付：ペテロ、ステパノ、パウロの演説）

ペテロ

2「美しの門」前の生まれつき足のきかない男をいやした時（3章）

（エルサレム）

①アブラハム、イサク、ヤコブの神は、イエスに栄光を与えた。
②あなたがたはイエスを引渡し、ピラトの釈放申し出を拒んだ。そして、いのちの君を殺した。
③神はイエスを死者の中からよみがえらせた。私たちはそのことの証人。
④イエスの御名が、その御名を信じる信仰のゆえに、この人を強く完全なからだにした。
⑤あなたがたは無知のために、あの行ないをした。
⑥神は預言者を通してキリストの受難をあらかじめ語り、実現された。
⑦罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて、神に立ち返りなさい。
⑧主の御前から回復の時が来て、あなたがたのためにメシヤと定められたイエスを、主が遣わしてくださるために。
⑨イエスは、あの「万物の改まる時」まで、天にとどまっていなければならない。
⑩モーセは言った。「神である主は、あなたがたのために、私のような預言者をあなたがたの兄弟のうちからお立てになる。この方が語ることはみな聞け。聞き従わない者はだれでも

ステパノ

る大臣に任じた。
⑧エジプトとカナン全地にききんが起こり、私たちの先祖たちには食物がなくなった。
⑨ヤコブはエジプトに穀物があると聞き私たちの先祖（息子）たちを遣わした。
⑩2回目のとき、ヨセフは兄弟たちに自分のことを打ち明け、ヨセフの家族のことがパロに明らかになった。
⑪ヨセフは人をやって父ヤコブと75人の全親族を呼び寄せた。
⑫ヤコブはエジプトに下り、彼も私たちの先祖たちも死に、シケムに運ばれアブラハムが買っておいた墓に葬られた。
⑬神がアブラハムにお立てになった約束の時（400年）が近づくに従いイスラエルの民はふえ広がり、ヨセフのことを知らない別の王がエジプトの王位につくまで続いた。
⑭この王は私たちの先祖を苦しめ、幼子を捨てさせた。
⑮こんなときにモーセが生まれた。神の目にかなったかわいらしい子で三か月の間父の家で育てられたが、ついに捨てられたのをパロの娘が拾い上げ、自分の子として育てた。
⑯エジプト人のあらゆる学問を教え込まれ、ことばにもわざにも力があった。
⑰40歳頃モーセは兄弟イスラエル人を顧みる心を起こした。
⑱同胞のひとりが虐待されているのを

パウロ

2 第二回伝道旅行途上　ギリシヤ哲学者たちの前で（17章）

（アテネ）

①あなたがたは宗教心にあついと見る。
②道で「知られない神に」と刻まれた祭壇を見つけたが、あなたがたが知らずに拝んでいるものを教えよう。
③この世界と万物をお造りになった神は、天地の主であるので、手でこしらえた宮などには住まれない。
④何かに不自由なことでもあるかのように、人の手によって仕えられる必要はない。
⑤神はすべての人に、いのちと息と万物をお与えになった神だから。
⑥神はひとりの人からすべての国の人々を造り出して、地の全面に住まわせ、決められた時代と、その住まいの境界とを定められた。
⑦これは神を求めさせるためで、もし探り求めるなら神を見いだすこともある。確かに神は私たちひとりひとりから遠くに離れてはおられない。
⑧私たちは神の中に生き、動き、また存在しているのだ。
⑨神を、人間の技術や工夫で造った金や銀や石などの像とおなじものと考えてはいけない。
⑩神はそのような無知の時代を見過ごしておられたが、今はどこででも悔い改めを命じておられる。
⑪なぜなら神は、お立てになったひとりの人により、義をもってこの世をさばくため、日を決めておられるから。そしてその方を死者の中からよみがえらせることによって、このことの確証をすべての人に与えられたのだ。

3 第三回伝道旅行途上　エペソ教会長老たちを招いて（20章）

（ミレト）

①私は謙遜の限りを尽くし、涙をもって、また、ユダヤ人の陰謀から来る数々の試練の中で主に仕えた。
②益になることはなんでもあなたがたに教え、
③ユダヤ人にもギリシヤ人にも、神に対する悔い改めと、主イエスに対する信仰とを、はっきり主張した。
④これからエルサレムに上るが、なわめと苦しみが私を待っていると聖霊があかしされているが、
⑤自分の走るべき行程を走り尽くし、主イエスから受けた神の恵みの福音をあかしする任務を果たし終えることができるなら、私のいのちは少しも惜しいとは思わない。
⑥あなたがたは私の顔をもう二度と見ることはないが、私は神のご計画の全体をあなたがたに知らせた。
⑦聖霊は、神がご自身の血をもって買い取られた神の教会を牧させるために、あなたがたを群れの監督にお立てになった。

使徒の働き（付：ペテロ、ステパノ、パウロの演説）

ペテロ

滅ぼし絶やされる。」（申 18.18 - 20）
⑪サムエルやその後の預言者たちも、今の時について宣べた。
⑫神がアブラハムに「あなたの子孫によって、地の諸民族はみな祝福を受ける。」と言われた、あなたがたはあの契約の子孫です。（創 22.18）
⑬神はそのしもべ（子）を立てて、あなたがたに遣わされ、この方があなたがたを祝福して、邪悪な生活から立ち返らせてくださるために。

3 捕えられて大祭司、民の指導者、長老、学者たちの前で（4 章）

（エルサレム）

①この足なえの人が直ったのは、あなたがたが十字架につけ、神が死者の中からよみがえらせたナザレ人イエス・キリストの御名による。
②「あなたがた家を建てる者たちに捨てられた石が、礎の石となった。」（詩 118.22）というのはこの方のこと。
③この方以外には、だれによっても救いは無い。世界中でこの御名のほかには、私たちが救われるべき名としては、どのような名も人間に与えられていないからです。
④神に聞き従うより、あなたがたに聞き従うほうが、神の前に正しいか。私たちは自分の見たこと、聞いたことを話さないわけにはいかない。

ステパノ

見て、エジプト人を打ち倒して仕返しをした。
⑲彼は自分の意思を理解されると思ったが、彼らは理解しなかった。
⑳翌日争っている兄弟たちを和解させようとしたが反発された。「きのうエジプト人を殺したように、私も殺す気か」
㉑モーセはミデヤンの地に逃げ、そこで男の子をふたりもうける。
㉒40 年たったとき、御使いがモーセにシナイ山の荒野で芝の燃えている炎の中に現われた。
㉓その光景に驚いて近寄った時、主の御声、「わたしはあなたの先祖の神。アブラハム、イサク、ヤコブの神である。」モーセは震え上がり見定める勇気もなくなった。
㉔主の声、「あなたの足のくつを脱ぎなさい、あなたの立っている所は聖なる地である。」
㉕「わたしは確かにエジプトにいる民の苦難を見、うめき声を聞いたので、救い出すために下って来た。」「あなたをエジプトに遣わそう。」
㉖人々が拒んだモーセを支配者また解放者としてお遣わしになった。
㉗モーセは彼らを導き出し、エジプトの地で、紅海で、また 40 年間荒野で、不思議なわざとしるしを行なった。
㉘このモーセがイスラエルの人々に「神はあなたがたのために、私のようなひとりの預言者をあなたがたの兄弟の中からお立てになる」と言っ

パウロ

⑧狂暴な狼があなたがたの中にはいり込んで群れを荒らし回るだろう。
⑨内部からもいろいろ曲がったことを語って、自分たちの方に引き込もうとする者も起こるだろう。
⑩だから目をさましていなさい。私が三年間、夜も昼もあなたがたひとりひとりを訓戒し続けたことを思い出してください。
⑪いま私は、あなたがたを神とその恵みのみことばとにゆだねる。みことばは、あなたがたを育成し、すべての聖なるものとされた人々の中にあって御国を継がせることができる。
⑫労苦して弱い者を助けなければならないこと、また主イエスご自身が「受けるよりも与える方が幸いである。」と言われたみことばを思い出すべきことを、私は示して来た。

4 [弁明その 1] 暴行するユダヤ人に対してローマ軍千人隊長の許可を得て（22 章）

（エルサレム）

①私はキリキヤのタルソ生まれのユダヤ人、ガマリエルのもとで律法につき厳格な教育を受け、先祖の神に熱心な者であった。
②この道（キリスト教）を迫害し、男女を縛り、投獄し、死に至らせたこともある。
③迫害のため、大祭司たちの手紙を持ってダマスコへ向かって出発した。
④ダマスコに近づいたとき、突然天からまばゆい光が私の回りを照らしたので、地に倒れた。
⑤「サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか」という声を聞いた。
⑥「主よ。あなたはどなたですか」と言うと、「わたしは、あなたが迫害しているナザレのイエスだ。」と言われた。
⑦一緒に居た者たちは、その光を見たが、その方の声は聞き分けられなかった。
⑧主は言われた。「起きてダマスコに行きなさい。そこで、あなたがなすべきことをみな告げられる。」
⑨その光の輝きのため、私は盲目となり、手を引かれてダマスコに入った。

使徒の働き（付：ペテロ、ステパノ、パウロの演説）

ペテロ

4 捕えられ、主の使いに解放されて再び議会の前で（5 章）

（エルサレム）

①人に従うより、神に従うべきです。
②先祖の神は、あなたがたが十字架にかけて殺したイエスをよみがえらせたのです。
③そして神は、イスラエルに悔い改めと、罪の赦しを与えるために、このイエスを君とし、救い主としてご自分の右に上げられた。
④私たちは、そのことの証人です。神がご自分に従う者たちにお与えになった聖霊もそのことの証人です。

5 異邦人の百人隊長コルネリオたちを訪問して（10 章）

（カイザリヤ）

①神はかたよったことをなさらず、どの国の人であっても、神を恐れかしこみ、正義を行なう人なら、神は受け入れられる。
②神はイエス・キリストによって、平和を宣べ伝え、イスラエルの子孫にみことばを送られた。
③このイエス・キリストはすべての人の主です。
④神は、このナザレのイエスに聖霊と力を注がれ、イエスは巡り歩いて良いわざをなし、悪に制せられているすべての者をいやされた。私たちは

ステパノ

た。（申 18. 15）
㉙このモーセが、荒野の集会において、生けるみことばを授かり、あなたがたに与えた。
㉚ところが、私たちの先祖たちは彼に従うことを好まず、彼を退け、エジプトを懐かしく思ってアロンに「偶像の神を作ってください」と言った。
㉛彼らは子牛をつくり、拝んだ。
㉜神は彼らに背を向け言われた。「わたしはあなたがたをバビロンのかなたへ移す。」
㉝荒野にあかしの幕屋が、モーセに命令されたどおりに造られてあった。
㉞先祖たちはこの幕屋を次々に受け継いで、神が異邦人を追い払い、その領土を取らせて下さった。
㉟ヨシュアたちはその幕屋を運び入れ、ついにダビデの時代となった。
㊱ダビデは神の前に恵みをいただき、ヤコブの神のために御住まいを願い求めた。
㊲しかし、神のために家を建てたのはソロモンであった。
㊳しかしいと高き方は手で造った家にはお住みにならない。
㊴かたくなで、心と耳に割礼を受けていないあなたがたは、先祖たちと同様にいつも聖霊に逆らっている。
㊵あなたがたの先祖が迫害しなかった預言者はない。今はあなたがたが正しい方を裏切る者、殺す者となった。
㊶あなたがたは御使いたちによって定められた律法を受けたが、それを守

パウロ

⑩そこで、敬虔な人で評判の良いアナニヤという人が来て、「兄弟サウロ。見えるようになりなさい。」と言った。すると、目が見えるようになった。
⑪「神は、あなたにみこころを知らせ、義なる方を見させ、その方の口から御声を聞かせようと定められたのだ」と彼は言った。
⑫「立ちなさい。その御名を呼んで、バプテスマを受け、自分の罪を洗い流しなさい。」
⑬私がエルサレムに帰って、宮で祈っていると、「エルサレムを離れよ。人々があなたのあかしを受け入れないから」と主は言われた。
⑭「主よ。私はあなたの信者を牢に入れたり、むち打ち、またステパノが殺されたとき、私も賛成し、彼らの着物の番をしていたのです。」
⑮主は言われた。「行きなさい。わたしはあなたを遠く、異邦人に遣わす。」

5 [弁明その 2] 大祭司アナニヤの訴えに対し総督ペリクスの前で（24 章）

（カイザリヤ）

①礼拝のためエルサレムに上り、まだ 12 日、その間、騒ぎを起こしたことは無い。
②私は、彼らが異端と呼んでいるこの道（キリスト教）に従い、先祖の神に仕えているし、律法・預言者をみな信じている。
③義人も悪人も必ず復活するという望みを神にあって抱いている。
④そのために、私はいつも神の前にも人の前にも、良心を保つように最善を尽くしている。
⑤この度、幾年ぶりかで、同胞に対して施しをし、供え物をするために帰って来た。
⑥供え物のことで宮の中にいた私を誤解して、彼らは訴えている。
⑦議会の前で、私は一言、「死者の復活のことで、私はきょう、さばかれている」と叫んだにすぎない。

使徒の働き（付：ペテロ、ステパノ、パウロの演説）

ペテロ

そのことの証人です。
⑤人々はこの方を、木にかけて殺した。
⑥しかし、神は3日目にこのイエスをよみがえらせ、現われさせてくださった。
⑦しかし、それはすべての人々にではなく、神によって前もって選ばれた証人である私たちにで、死者の中からよみがえられたイエスとごいっしょに食事をした。
⑧イエスは「このイエスこそ生きている者と死んだ者とのさばき主として、神によって定められた方であることを人々に宣べ伝え、そのあかしをするように」と命じられた。
⑨イエスについては、預言者たちもみな、この方を信じる者はだれでも、その名によって罪の赦しが受けられる、とあかししている。
ペテロがこれらのことばを話し続けているとき、みことばに耳を傾けていたすべての人々に聖霊がお下りになった。割礼を受けている信者で、ペテロといっしょに来た人たちは、異邦人にも聖霊の賜物が注がれたので驚いた。
⑩「この人たちは、私たちと同じように聖霊を受けたのですから、いったいだれが、水をさし止めて、この人たちにバプテスマを受けさせないようにすることができましょうか。」とペテロが言った。

ステパノ

ったことはない。
㊷聖霊に満たされたステパノは天を見つめ、神の栄光と神の右に立っておられるイエスとを見て言った。「見なさい。天が開けて、人の子が神の右に立っておられるのが見えます。」
㊸「主イエスよ。私の霊をお受け下さい。」「主よ、この罪を彼らに負わせないでください。」こう言って眠りについた。

パウロ

6 [弁明その3]
アグリッパ王と総督ベルニケの前で（26章）

（カイザリヤ）

①私は若い時から宗教の最も厳格な派に従ってパリサイ人であった。
②ユダヤ人十二部族は、神が先祖に約束されたものを得たいと待ち望んでいる。私はこの希望のために訴えられている。
③神が死者をよみがえらせるということが、なぜ信じがたいのか。
④以前は私自身も、ナザレ人イエスの名に、強硬に敵対すべきだと考えていた。
⑤そうしてキリスト信者を大いに迫害し、ついには国外の町々まで彼らを追跡した。
⑥このようにしてダマスコへ行った時、天からの光が私と同行者たちを照らした。
⑦私たちはみな倒れた。その時、声があり、「サウロ、サウロ。なぜわたしを迫害するのか。とげのついた棒をけるのは、あなたにとって痛いことだ。」
⑧私が「主よ。あなたはどなたですか。」と言うと、主は言われた。「わたしは、あなたが迫害しているイエスである。」
⑨「わたしがあなたに現われたのは、あなたをわたしの奉仕者、また証人に任命するためである。」
⑩「わたしはあなたを、この民と異邦人のところに遣わす。それは彼らの目を開いて、暗やみから光に、サタンの支配から神に立ち返らせ、わたしを信じる信仰によって、彼らに罪の赦しを得させ、御国を受け継がせるためである。」
⑪私は、この天からの啓示にそむかず、ユダヤ全地方、さらに異邦人にまで、悔い改めて神に立ち返るよう宣べ伝えてきた。
⑫この日に至るまで神の助けを受け、堅く立って、皆にあかししている。預言者たちやモーセが語ったこと以外は、何も話さなかった。
⑬すなわち、キリストは苦しみを受けること、また死者の中からの復活によって、この民と異邦人とに最初に光を宣べ伝える、ということ。
⑭アグリッパ王。あなたは預言者を信じておられると思います。
⑮ことばが少なかろうと、多かろうと、私が神に願うことは、みなが私のようになってくださることである。

（完）

あとがき

秋も深まり足早に冬の到来が告げられていますが、お変わりありませんか。

この夏　マタイ・マルコ・ルカ・ヨハネ四師の案内でイエスさまのご足跡を訪ねてみました。
それはイエスさまのご生誕から十字架の死、そしてよみがえりまでの道のりでしたが、その間絶えず流れ出て迫ってくる父なる神様と御子イエスさまの限りないご愛を身一杯に覚えた旅でした。

イエスさまから直接この愛の指導を受けて育ったお弟子たちは、イエスさまが地上を離れられた後いったいどうなったのだろうと興味が続いて、次は『使徒の働き』にまたもやのめり込むことになってしまいました。
生まれたばかりの、この世の弱者で、少数の信仰者の群れが、いろいろな困難や苦しみに遭いながらも、「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を伝えなさい。」（マルコ 16.15）とのイエスさまの言いつけを忠実に守って、この福音を全世界に行き亘らせた彼らの働きにまた新たな感動と感謝を覚えた次第です。

覚え書きのつもりでしたメモをこのようなかたちで「便覧」にまとめました。なにかのご参考にでもなればさいわいです。
本冊子作成に当たり、親しい信仰の友であり編集者の弓削悦子姉妹のご協力をいただきましたことを申し添え、あつくお礼申し上げます。

それでは　新しい年もあなたとご家族の上に主の守りとみちびきが豊かにありますようお祈りしています。

2017 年晩秋

主にあって
青柳　惇